

祖父と私

首都大学東京法科大学院
教授 我妻 学

第 22 号

発行日 / 2017年12月13日

発行 / 我妻榮記念館事務局

〒992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL-FAX 0238-24-2211

記念館が平成4年6月に開館してから、早いもので4半世紀がたちます。本紙の来館者コーナーを拝読しますと、裁判官、弁護士、法学部の学生を中心にいろいろな方に訪れていたいろいろな方います。はじめに記念館を管理・運営していただいた初代館長故松野良寅さんをはじめとする歴代の館長、顧問の小関薫さんのご厚意に感謝申し上げたいと思います。

記念館となっている祖父・我妻榮の生家は米沢におけるごく標準的な二階建てです。たしかに当時の大所帯の家としては、狭かったのかもしれないが、現在の東京などの都市部における標準世帯からすれば、想像していたよりも広い印象を受けました。



昭和48年(1973年)に祖父が亡くなった当時、私は、中学2年生でしたので、残念ながら祖父の晩年しか知りません。書齋に書物がたくさんあったことは覚えておりますが、むしろ

自宅のあった東京(石神井公園)の書齋が急な階段の上であり、階段の昇り、降りが非常に怖かったことの方が印象に残っています。

普段は祖父母とは別々に住んでおりましたが、産婦人科医の父・堯(榮次男)がほとんど休みを取れなかったため、夏休みには軽井沢(南原)で、姉(美佐子)と一緒に、祖父母、時には、伯父の洋(榮長男)一家と過ごしました。

記憶に残っているのは、鯉のあらいなどを自ら作って皆に振る舞ったり、親戚一同と会食をしたり、愛犬をかわいがったりする家庭人としての祖父の姿でした。父も述べておりますが、南原を米沢とともに愛したのは、夏の暑い東京を離れて、避暑地として過ごすだけではなく、今でも続いている南原の人々との交流とともに、佐久でとれる鯉など米沢に共通するものがあつたのだと思います(我妻堯「若者に何らかの刺激になれば」本誌五号)。

私と同様に東京生まれの東京育ちですが、今でも南原に行けば、鯉のあらいは必ず食べます。

その後、私は、大学で法学部に入学し、研究者の道に進みました(中里実教授による過分な紹介があります(我妻榮先生記念館を訪れて「本誌第一九号」)。私の専門は、民事訴訟法で、祖父の民法とは異なりますが、民法と密接に関係していますので、祖父の学術論文や教科書などを折に触れて参照します。私が普段接しているのは、もっぱら法学者としての祖父で、幼少期の記憶に残っている家庭人としての祖父の姿は歳月がたつにつれ、忘却の彼方に行こうとしていました。

今年、市立米沢図書館の先人顕彰コーナーに我妻榮展(10月27日~12月27日)を開催していただくことになりました。時を同じくして、祖父が毎夏過ごしていた中軽沢図書館において我妻文庫の公開に関して、相談を受けました。私は、祖父が日々どのように考えていたのかをもっと知るために随筆集を読み返すことにしました。おそらく、祖父から法律の専門書に偏らずに、随筆集も時間を見つけて読んでみたまえ、といわれているような気がします。

大学教授には、才能多方面で大学教授でもつとまるもの(Auch-Professor)と、世事にうとく、人と交わるのを好まず、大学教授だけしかつとまらないもの(Nur-Professor)の二つの型があり、「学者の世界は世の中を吹きすさぶ冷たい風の当たらない温室である。この中で唯我独尊の生活を送れば、大抵の者は、他の社会に通用する才能を失ってしまう。」と祖父は述べています(我妻榮・民法と五〇年(身辺雑記4巻)155頁)。

祖父自身がどちらに属するとは直接述べていませんが、学問をリレー競争になぞらえて、できるだけ長い距離を、できるだけ速く走りながら、先頭を切っていないければならないとも述べています(同書154頁)。大学教授の研究が実社会と遊離してはならないことは認めつつ、あくまでも大学教授の本職は、学問であり、大学教授だけしかつとまらない者としての誇りを持つていたと思います。

祖父は、ほぼ毎年帰省し、特に出身校である興讓館で、郷里の若い世代の学生達に向けて講演を数多くしております。経済的に恵まれない学生に対して自顧奨学財団を設立していますが、教育者として、次世代の育成に非常に熱心だったと思います。私も、これを機に、祖父から父が引き継いできた米沢とのつながりを少なくとも次世代に引き継げるようにしたいと思います。

我妻榮記念館の館長が 替わりました

三度の青天の霹靂

矢尾板 操



今般「我妻榮記念館」の館長に就任いたしました、矢尾板操と申します。

まず、就任依頼が型破りでした。今年5月9日私はインド、チェンナイの奥地 INNABURU におりました。10時半頃（日本は午後2時頃だと思います）私の携帯が鳴りました。日本からの電話でした。米沢信用金庫の志賀さんから「なんと、直ぐに種村会長に代わるからと、その時あいにく電波の状態が悪く「頼みたいことがある」とだけ聞き取れました。帰国してから「なんででしょう？」とお訊ねに伺ったら「断るなよ」とまづ釘を刺され、次に「急いでる」「困ってる」との言葉、最後に「我妻榮記念館」という固有名詞がでてきました。海外まで追いかけてくるのだから、私はつきり前任の方の緊急事態かなにかだろうと勝手に想像して「それじゃ仕方ないです、わかりました」と申し上げたのが運のつきでした。

第二のお驚きです。記念館に初めて入り、床の間の我妻榮先生真筆の掛軸を拝見しました。「けんぼうゆうたいなれど、ただゆうじょうはうつらす」（軒や瓦は昔と変わってしまった、ただ友情だけは変わらない）原文は漢字です。驚いたのはその説明文でした、なんと近野榮次氏寄贈と書いてあるではありませんか。私の義理の父に当たります。昨年亡くなり私が喪主を務めましたから忘れられない人です。此の事を調べてみると昭和18年に榮先生の同級生であった旧友近野豊（辻タクシーの創業者で榮次の父）宅を訪ねて書いたとあるではありませんか。こんな場面で豊に出会う（今年が豊の50回忌、榮次の一周忌でした）とは思ってもありませんでした。

それと重ねた話ですが、我妻榮先生の興譲館高校創立80周年記念講演録を読んでいたら、次の様な発言が見つかりました。『……その当時、お医者さんになられた矢尾板誠策さん、海軍の方へお入りになりました小林仁さん、そして北沢敬二郎さんを三秀才と申しました。……その後にも加わって4秀才になったらしいんですよ。』矢尾板誠策は私の祖父です。小林仁さんは私の妻の伯父である青木

厚一さんの奥さんの父親でした。北沢敬二郎氏は私の父（養子）の遠縁にあたります。不思議なご縁が潜んでいたものです。

三番目の驚きです。引継でお会いした上村勤二様はお元気で私は当惑したのですが、引継は事務的に行われました。我妻榮先生を知るために三冊の本を紹介されました。「追想の我妻榮」、「民法案内1私法の道しるべ」、「法律学と私」幸い3冊共アマゾンで購入できました。早速読んで驚きました。このように愛された法律学者（法律学者には杓子定規でカタブツが多いい？）がいたものだ。コチコチの法律（法律はそうであるべき）

上村前館長ご苦労様でした



上村前館長は、平成21年より平成28年までの8年間という長い期間には、「我妻榮記念館」開館20周年記念事業が実施され、

一 啓蒙・普及活動として、記念講演の実施（我妻堯先生）やDVDの作成

二 我妻榮記念館環境整備事業として文書類の閲覧システムの構築、年表の整備、除雪機の購入などにご尽力をいただきました。

をいかに実体社会に適用するか心をくだいておられた。そこから実社会の経済、金融等に幅広く興味を持たれ、そして有名な社会学者であるマックス・ウェーバーの影響を受けられたように拝見しました。

「法律は杓子定規でなければならぬ、然しその運用は杓子定規であってはならぬ」という名言があります。法律家が今でも分かり易いと、我妻民法として崇めているのが判る気がしました。

このように声を掛けられて驚き、記念館に入って驚き、先生のお人柄を知って驚いた次第です。

また、記念事業の継続的事業として「我妻榮記念館劣化改修工事」が、平成24年度「耐震診断」、平成26年度「実施設計委託」、27年度「劣化改修工事」、「同設計監理」、「不陸調整等工事」、「看板設置工事」、「土蔵人口復旧工事」など13,000,000円を超える大事業について、陣頭に立って取り組まれました。

今後は、矢尾板新館長より当記念館の顧問として委嘱、ご承諾いただいたことから、記念館の運営等について、ご指導、ご助言を頂きたいと考えております。

よろしくお願いいたします。

社会に役立つ立派な人に

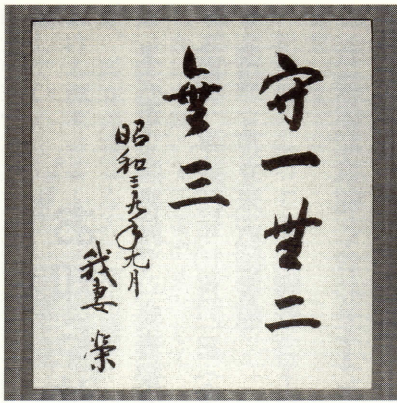
興讓小学校の「まがき文庫」

運営委員 神保 厚

我妻榮先生の小学校時代の母校、米沢市立興讓小学校には、もう一つの図書室である「まがき文庫」があります。

昭和四十四年五月三十日、我妻先生は興讓小学校を訪問され、全校児童に対し「社会に役立つ立派な人になりましょう。」とお話しされ、七百二十四冊もの図書を贈ってくださいましたことが「まがき文庫」の始まりです。その後も毎年、自願財団より図書購入費が贈り続けられ、充実した図書室になっています。

我妻先生の小学校時代、自分がほしくともなかなか買ってもらえ



我妻先生の小学校時代、自分がほしくともなかなか買ってもらえなかった本を、母校の児童たちがたくさん読んでもらいたい、好きな本がたくさん読めたらどんなに幸せだろうという先生の願いが込められた特別な図書室です。また、「まがき文庫」という名前は、我妻先生が命名されたものです。「まがき」というのは、竹や柴を粗く格子に組んで作った垣で、興讓小学校の創立記念式の歌詞「まがきの菊ともろともに言葉の花は咲きそめぬ」からとられました。「まがき文庫」は興讓小学校南校舎二階東端の明るい環境にあり、主として四～六年生が毎日の学習に使用しています。児童の豊かな心を育む「読書センター」として、また探究型学習で自己課題を解決していく「学習・情報センター」として効果的に活用されています。

本棚の上には、「守一無二無三（一を守り、二無く、三無し）」の我妻先生直筆の書や肖像写真資料などが掲げられ、児童は我妻先生から見守られた中で、たくさんの方に親しんでいます。

来館者のコーナー

☆興讓小学校6年2組のR・Kです。我妻先生のような立派な人になりたいです。

☆愛知在住です。昔先生の民法を読んだなあ懐かしく思いました。公務員をやっていますのでリアルタイムで民法の知識は要求されるのですが、我妻先生の生き方を知り、まだまだ私も精進が足らぬことを自覚した次第であります。励みます。ありがとうございます！

☆念願かなって来ることができました。先生の学問に対するひたむきな姿勢を見習い、精進いたします。 K・A

☆「巻物」で大きな視点、「判例カード」で小さな視点、民法を勉強するために二つの視点が必要なんです。 A・S

☆我妻民法の基本である「自由・平等」を積み重ねられた先生の緻密さには敬服させられました。自分は地方で、一介の公務員をしておりますが、今後は先生を見習い努力、精進します。ありがとうございます。 いわき市 Y

☆東京在住です。大学院の先生にこの記念館のことを教えていただきました。このようにたくさんさんの研究を残してくださいました。私も精進して今後も研究に励みます。

☆我妻先生の生き方と学びの姿勢がとても素晴らしかったです。勉強させていただきありがとうございます。 M

☆民法講義で司法試験に合格しました。来れてよかったです。 Y・G

☆この春より法学の勉強を始めました。社会に貢献できる法律家を目指したいと思えます。 K・S

☆我妻強くコツコツと研究を続けます。 明治大学大学院 A・T

☆法律や民法とは関係ない仕事をしておりますが、縁あって来館しました。我妻先生や縁夫人あつての民法であり、先生だなぁと思えました。今からでも「井戸を掘ってみよう」と思いました。 M・K

☆我妻先生の民法学者としての「民法一筋」の生き方には畏敬の念を抱いております。また、そのような人にも魅了されました。我妻先生のように法的安定性と具体的妥当性の調和を図れる人になりたいと思えます。 M・R

☆残り6年（退職まで？）人材育成に井戸を掘ります。 山形地裁 A・S

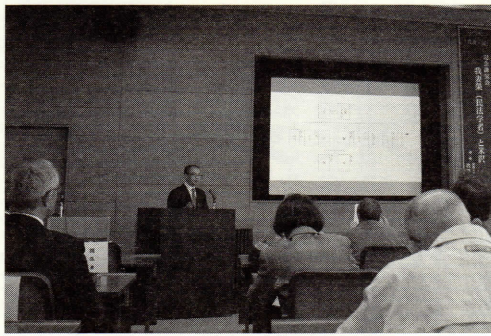
☆我妻先生の判例カードを読ませていただき、改めて自分の勉強不足を感じました。今日の体験を心に刻んで、今後勉強に励みたいと思います。 T・M

☆一つのことに取り組み、続ける。この大切さを学びました。 Y・I

☆裁判官を40年間やり、法科大学院で民法を教える立場にありますが、我妻先生の「民法講義」を超える教科書は未だに出ておりません。本日この記念館に来て、我妻先生の偉大さを改めて痛感しました。 T・N

☆学生時代我妻先生の愛弟子の唄孝一先生に習った者です。感激しております。 H・T





記念講演会の様子



我妻学先生御一家を囲む会

記念講演会が開催されました

米沢市立図書館で「我妻榮展」が開催されています。
 会期・平成29年10月27日(金)～12月27日(水)
 会場・市立米沢図書館
 先人顕彰コーナー(ナセBA 中2階)
 我妻榮記念館と合わせてごらんください

お知らせ

「我妻榮展」の一環として「我妻学」首都大学東京教授(榮博士のお孫さん)ご次男(ご長男)による記念講演会が開催されました。
 会場は伝国の杜2階大会議室で80名を超す参加者が学先生の話を聴きました。
 「我妻榮(民法学者)と米沢」と題した講演では、我妻榮の生い立ち、業績、趣味、米沢との関わりなどについて詳しくお話がありました。
 特に米沢が生んだもう一人の

民法学者「遠藤浩」学習院大学教授とのかわり、趣味については、スキー、スケート、フェンシング、野球、柔道、相撲など多岐にわたり、まさに「文武両道」そのもので大変興味深い物でありました。
 講演終了後、上杉伯爵邸で「学先生を囲む会」が開催され、学先生の他ご令室様、ご子息様(京都大学大学院在籍)も出席なされ、当館館長、当館運営委員や有為会関係者を初めとする関係者と親しく懇談なされました。

入館者

平成4年度	312名	平成5年度	560名
平成6年度	635名	平成7年度	543名
平成9年度	791名	平成11年度	492名
平成14年度	172名	平成15年度	333名
平成16年度	423名	平成17年度	465名
平成18年度	434名		
平成19年度	393名		
平成20年度	425名		
平成21年度	440名		
平成22年度	360名		
平成23年度	232名		
平成24年度	486名		
平成25年度	484名		
平成26年度	480名		
平成27年度	243名		
平成28年度	463名		

施設利用者

平成4年度	353名
平成5年度	463名
平成6年度	414名
平成7年度	315名
平成8年度	367名
平成9年度	353名
平成10年度	338名
平成11年度	515名
平成12年度	337名
平成13年度	517名

(平成27年度、5月15日から9月30日まで劣化改修工事のため閉館)

※平成8・10・12・13年の入館者は不明、平成4～18年の施設利用者は資料なし。

訃報

平成29年12月11日当館顧問の小関薫さんがご永眠なされました。

小関さんは、我妻榮記念館開館当初から、運営委員、顧問を歴任なされ、当館の運営にご尽力なされました。ご冥福をお祈り申し上げます。

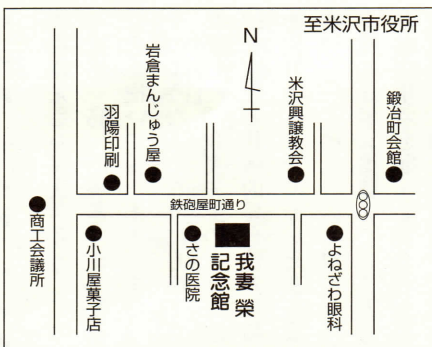
記念館のスタッフ

ご協力をお願いいたします。

- 名誉館長 我妻 堯
- 顧問 上村 勘二
- 館長 矢尾板 彦
- 運営委員 本多 和
- 運営委員 安部 敏
- 運営委員 高橋 子
- 運営委員 五十嵐 繁
- 運営委員 佐藤 京
- 運営委員 神山 隆
- 運営委員 山田 正
- 管理人 塚隆 弘

開館日の案内

日曜日、月曜日、木曜日、金曜日を開館日とします。
 開館時間帯は午後1時から4時まで
 入館料 無料



〒992-0045 米沢市中央3-4-38
TEL・FAX0238-24-2211

我妻榮記念館 検索